

## 事業計画書

1. 事業名称 皆でつくる根木内歴史公園 II

2. 実施主体

■ 団体名： 根木内歴史公園サポーター（根っ子の会）

■ 事業担当課： 公園緑地課

3. 事業目的及び社会的成果（アウトカム）

〔目的〕

- 1) 根っ子の会が活動を行うことにより、公園を「身近な自然とふれあえる場」「歴史を学び文化教養を広げる場」として、広く市民に愛され、活用される公園とすること。
- 2) 「歴史とみどりと水の調和」をテーマとしたこの公園を、トンボやカエルが生息し、野鳥が飛来する自然豊かな公園にすること。
- 3) 活動を通じて、会員および参加者間の情報交換や親睦を図ること。

〔効果〕

- 1) 根っ子の会が中心となり、イベントなど諸々の活動を行うことにより来園者が増え、公園が活性化し、市民の自然や歴史に関する理解が深まる。
- 2) 市民と行政で目標や課題、成果を共有することにより、市民と行政の相互理解が深まること。
- 3) 行政の画一的な維持管理では行き届かないところを、市民の多様な情報や提案を生かすことにより、より良い保全管理の方法や公園の利用のあり方を見出せること。

4. 事業の課題及び事業成果（アウトプット）

〔課題〕

- 1) 公園づくりは開園した時がスタートであると考えており、「公園をどのように保全し、育て、利用していくか」という課題をもち、行政を交えて会員間で合意形成を図っていく。
- 2) 降雨直後以外は湿地帯の水量が少なく、水を必要とする動植物の繁殖に危惧があり、これの解消に取り組まなければならない。
- 3) 特に湿地帯の下草やヨシなどの生育が旺盛であり、良好な景観を保持するために除草作業などを頻繁に行う必要がある。また樹林部の竹や不要樹木の伐採、土塁の崩落防止対策の作業、環境改善のための作業が多くあり、消耗品および備品等の確保が必要となる。  
(備品は倉庫に保管・管理する)
- 4) 近隣小学校の先生、生徒にも来園を勧め、子どもからお年寄りまでが「豊かな自然」や「古

来の歴史」を楽しめる場をどのように提供したらよいか、具体化していく必要がある。

- 5) 根っ子の会の活動状況や市民の皆さんに出来るだけ有用な情報を提供するために、掲示板やHPを活用する。ただしその継続的運営を会員個人だけで行うには相当な負担がかかり、一部外部委託を行っている。
- 6) 現在、行政の委託による維持管理業者が入っており、作業範囲や内容において更に根っ子の会との協調と補完がなされる必要がある。

#### 〔成果〕

- 1) 作業を通して、四季を通じての景観保持や園内の危険低減ができ、来園者数が増える。
- 2) イベント開催や歴史案内を通じて、子どもからお年寄りまでが「豊かな自然」や「古来の歴史」を楽しめる場となることで、幅広い年齢層の方々に利用してもらえる。
- 3) 湿地に常時水を確保することにより、水辺としての価値が高まり、自然体験学習も出来るようになることから、小学校等の校外活動での利用が増える。
- 4) 掲示板やHPを充実させることにより、多くの市民の皆さんに有用な情報を提供できる。
- 5) 行政の委託による維持管理業者は、機械を用いた効率的な作業や、枯木の伐採作業等、業者にしかできない作業に多くの時間を費やすことができ、より快適で安全な公園にすることができる。

## 5. 協働の意義

### 〔提案者(根っ子の会)〕

- 1) 来園者および近隣住民から根っ子の会の活動が容認され、問題のない円滑な活動を推進できている。
- 2) 「協働で、何を、どこまでできるのか」を、市民と行政がお互い歩み寄り、諦めずに取り組んでいくことで、公園を活性化させることができる。
- 3) 多くの市民が「自然や歴史の価値」を享受することができる。
- 4) 市民が「まちづくりに貢献できる」というやりがいがある。

### 〔市(公園緑地課)〕

- 1) 協働のノウハウ(成果に向けての「ひと・もの・かね・しくみ・じょうほう・きもち」のつくり方)を今後の公園緑地行政に生かすことができる。
- 2) 行政だけで同じことをやる事を考えれば、より軽い負担で、大きな効果(自然や歴史がより多くの人に享受できる)が得られる。

## 6. 事業実施の役割分担

### 〔提案者の役割(根っ子の会)〕

- 1) 公園の保全活動、調査観察会、イベント開催、広報活動などにおける労務

2) 公園に関する情報、知恵、技術、人材、一部資金(会費)等の提供

〔市の役割(公園緑地課)〕

- 1) 根っ子の会の活動全般へのバックアップ  
(必要に応じた市担当者の派遣、情報の提供、行政が負担すべき物品等の提供)
- 2) 必要に応じた公園の再整備
- 3) 負担金の拠出

## 7. 事業スケジュール

1) 定例活動: 毎月第1、3、4金曜日 9時30分～14時 (定例外活動日: 必要な都度)

① 樹林地、湿地帯の保全活動

(竹や不要樹木の伐採、下草刈り、ヨシ刈り、園路の整備等)

② 大手口の整備、土塁の崩落防止等の検討および実施(千葉大との連携)

③ 「公園の未来図」の検討継続および未来図に向けての現場作業

2) 調査観察会: 月1回程度の実施(千葉大との連携)

① 湿地定点の調査観察

② 植生調査、移植保護対策、貴重種や群生植物の記録と周知

3) イベント、ボランティア講座の開催:

① ボランティア体験講座を開催

5～6月に開催

5日程度の講座テーマに沿って i 根木内歴史公園とは、ii 公園内の自然を知る、iii 樹林の作業体験、iv 湿地の作業体験とお楽しみ、v 今後に向けて、講座開催ボランティアとして根っ子の会で一緒に活動する仲間づくりの企画

② 虫ハカセになろう(子どもたちを対象とした虫の観察会)

7月

③ 夏休みの工作づくり(竹細工、ヨシズ編みなど)

8月

④ ヨシ原刈りイベント(湿地帯に密生するヨシ刈り)

11月

⑤ その他(剪定実習、森の音楽会、緑と花のフェスティバル参加)

⑥ 公園ガイド、写真展開催

随時

⑦ 近隣小学校、近隣町会との交流

随時

4) 広報活動:

① HPは月2～3回の更新作業を行い、定例活動やイベント関係等を掲載

② 掲示板(2基)には、イベント開催などのお知らせ、活動状況・自然の見どころ・歴史や地形に関する情報などを適宜掲載

③ お知らせや情報のチラシ配布、近隣町会へのニュース配布

## 8. 将来の展望

### 1) 「公園の未来図」について

根っ子の会の会員間と公園緑地課で検討中であるが、纏った段階でHPや園内の掲示板に掲載し、市民からの意見や提案も検討を行う。

### 2) 会員の募集について

適時会員募集を行うが、平成21年には2回目の「根木内歴史公園ボランティア体験講座」を開催し、サポーター(公園応援団)を増やし、さらに活動を充実させる。

### 3) 活動資金の確保について

企業や近隣の町内会に協賛会員として資金提供を呼びかけ、安定した活動資金を確保する。

### 4) 協働のモデルケースについて

樹林地と湿地帯を含む自然豊かな公園の保全管理の方法や公園の利用のあり方について協働で進める試みは、松戸市ではこの公園がはじめてであるため、先進的モデルケースとして継続発展させていく。

技術的・専門的なことは基本的に行政に任せることであるが、市民ボランティアが出来ることは積極的に取り組む考えで活動を推進する。

### 5) 協働事業提案制度適用以降について

制度適用以降も、根っ子の会と公園緑地課との協働事業として継続させる。

この公園での活動は、「豊かな自然」と「古来の歴史」を楽しめる場にしていくことですが、何よりも「自分たちの街」を「自分たちの手」で「安全で、快適な、暮らしやすい街」にしたいという願いから生まれたものであり、「街のために」「皆のために」「自分のために」という、やりがいのある活動です。この市民と行政の協働活動を継続することにより、松戸市が「豊かで活力のある、住んでよかった街、住みたい街」になることを願っています。

(第6条関係)

### 事業の予算計画

【社会資源持ち寄り (収入)】

(単位:円)

提案者	(自己資金)	金額	積算内訳
	会費 寄付金等	28,000 円 30,000 円	28名 × 1,000 円
	自己資金合計 (a)	58,000 円	
	労力換算額計 (b)	897,000 円	労力換算計算書のとおり
市	負担金申請額 (c)	400,000 円	
	資金合計額 (d) (a+c)	458,000 円	事業費 (g) と同額

【負担金申請額 (c) チェック項目】

1. 対象となる経費 (e) 欄の90%以内
2. 1事業あたり50万円以内
3. 自己資金 (a) 欄に労力換算額 (b) 欄を加えた額以下であること。

【事業費の積算 (支出)】

	項目	金額	積算内訳
負担金の交付対象経費	保険料	32,000 円	別紙 (事業費の積算明細書)
	広報費	49,300 円	
	通信費	5,000 円	
	消耗品費	170,000 円	
	会場費	10,000 円	
	燃料費	20,000 円	
	謝金	169,000 円	
	対象となる経費合計額 (e)	455,300 円	
その他経費	予備費	2,700 円	
	その他経費合計額 (f)	2,700 円	
	事業費 (g) (e+f)	458,000 円	収入合計額 (d) と同額

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にしてください。

労力換算計算書

(単位：円)

項 目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間×回数×500円
	定例活動 (30回)	360,000 円	12人×2h×30回×500円
	調査観察 (12回)	60,000 円	5人×2h×12回×500円
	イベント	108,000 円	12人×3h×6回×500円
	イベント企画準備	36,000 円	6人×2h×6回×500円
	公園案内他	18,000 円	3人×2h×6回×500円
	広報資料作成	9,000 円	1人×3h×6回×500円
	HP掲載作業	36,000 円	1人×3h×24回×500円
	会議打合せ	144,000 円	12人×2h×12回×500円
	ボランティア体験講座	90,000 円	6人×6h×5回×500円
	体験講座の企画準備	36,000 円	3人×3h×8回×500円
合計 (b)	897,000 円		

## 【事業費の積算明細書（支出）】

(単位：円)

No.	項目（明細品目）	単価	数量	金額	合計
1	保険料				32,000
	ボランティア活動保険	500	28	14,000	
	イベント保険 3件	50	210	10,500	
	体験講座保険	50	150	7,500	
2	広報費				49,300
	掲示物印刷費（カラー、パウチ）	100	200	20,000	
	チラシ印刷（6回のイベント関係）	3,000	6	18,000	
	チラシ広報費（体験講座）	5,000	1	5,000	
	HPサーバー使用料	6,300	1	6,300	
3	通信費（電話、ファックス、郵送費）			5,000	5,000
4	消耗品費				170,000
1)	事務消耗品			10,000	
2)	イベント消耗品費	10,000	7	70,000	
3)	体験講座消耗品費	30,000	1	30,000	
4)	企画展示用品（材木等）	2,000	10	20,000	
5)	企画展示用品（パネル）	4,000	10	40,000	
5	会場費（体験講座）	10,000	1	10,000	10,000
6	燃料費		1	20,000	20,000
7	謝金				169,000
	虫ハカセの謝金1	8,000	1	8,000	
	虫ハカセの謝金2	2,000	6	12,000	
	夏休み工作づくり	2,000	6	12,000	
	剪定実習	5,000	1	5,000	
	森の音楽会	5,000	4	20,000	
	体験講座コーディネーター	4,000	20	80,000	
	体験講座講師	16,000	2	32,000	
	予備費			2,700	2,700
	合計金額				458,000





## 事業計画書

1. 事業名称 「キッズイノベーション」事業  
～子どもとおとなの理科実験・理科工作～  
《新しいアイデアから創造する新たな価値》
2. 実施主体
- 団体名： 特定非営利活動法人サイエンスシャワー
  - 事業担当課： 松戸市教育委員会 生涯学習本部 企画管理室

## 3. 事業目的及び社会的効果（アウトカム）

## □ 背景

活力にあふれ、豊かで安全、安心な社会を構築するためには、世界の先頭に立って新しい創造や技術革新を行う「科学技術創造立国」の実現が必要不可欠です。そのためには、新しいアイデアから社会的意義のある新たな価値を創造し、社会的に大きな変化をもたらすことのできる自発的な市民となれる子どもを育成するとともに、チャレンジ精神に満ちた科学技術の担い手を掘り起こし、活用することが求められています。

## □ 事業の目的

## ① 子ども理科実験・理科工作の提供

子どもたちを対象に、五感を働かせ、体を動かし「実験・実習・観察・創意工夫」する理科教室を開設し、子どもたちの科学に対する興味・関心を高めます。

## ② 多彩なおとなの活用

社会貢献を推奨している団体・企業の協力を得て、豊富な知識、バリエーションに富んだ人材を確保し、活用します。

## □ 社会的な効果

この事業をとおして多くの子どもたちが「科学」を学び、家庭や地域の方々が「科学に興味・関心」を持ち、科学の大切さを知ることができます。さらに、地域の企業や業界団体との連携を進めることにより、理科実験・理科工作を通じた子どもとおとなのコミュニケーションとネットワークのインフラを作り上げることができます。

#### 4. 事業の課題及び事業成果（アウトプット）

##### □ 背景

今日、子どもの絶対数が年々確実に減少していくことと並行し、彼らの生活にはテレビやゲームなど刺激的なことを体験する機会がたくさんあります。

また、学校教育における幾度の学習要領の改定などにより、理科の素質を持つ多くの子どもたちが勉学の機会や意欲を失っています。

##### □ 事業の課題

###### ① 学校を活用した理科実験・理科工作教室の開設

地域に密着している学校の理科室等を活用し、平日の放課後や休業中・長期休業中などに定期的に理科実験・理科工作を開催します。また、市内均等化を配慮し、毎年事業規模の拡大を目指します。

###### ② 研究所や企業の最新鋭施設の見学

研究所や企業の研究者や技術者が「子どもたちのためのセミナー」を開催します。

###### ③ キッズイノベーションセンターの開設

2年次においては、「理科実験・理科工作」の探求を深める拠点として、キッズイノベーションセンターを開設します。（学校の余裕教室の活用を想定）

#### 5. 協働の意義

##### □ 提案者にとっての意義

① 市（教育委員会）との協働により、学校施設の確保・活用が容易になるとともに、学校関係者、保護者との理解・信頼関係が深まります。

② 協働により、豊富な人材の確保がしやすくなり、理科実験の開発・企画が充実し、「感動を与える理科実験・工作教室」が構築でき、活動の輪が広がります。

##### □ 市にとっての意義

① 提案者との協働により、学校・家庭・地域連携施策を進めるため基盤構築が図れます。

② 市民の生涯学習に対する支援の要請に応える機会と場所が提供できます。

③ 現在の学校理科教育ではできない児童・生徒の理科に対する興味・関心を高めることができます。

#### 6. 事業実施の役割分担

##### ■ 提案者の役割

理科実験・工作の開催。実験の開発・企画。人材の確保と研修。

##### ■ 市の役割

広報活動・負担金・共催（後援）の確保、情報提供。

## 7. 事業スケジュール

## ① 柿ノ木台小理科教室（場所：柿ノ木台小学校・理科室 実験日時：土曜日 9:00-11:30）

21年4月	準備	学校長あてに提案書を発送
21年5月	調整	小学校と詳細な打ち合わせ。
	体験実験	体験実験を行う
21年6月	実験	小学校で3回(3/24)理科実験を行う
21年7月	実験	小学校で2回(5/24)理科実験を行う
21年8月	見学会	候補予定(独立行政法人海洋研究開発機構)横須賀
21年9月	実験	小学校で2回(7/24)理科実験を行う
21年10月	実験	小学校で3回(10/24)理科実験を行う
	セミナー	子どものためのセミナー
21年11月	実験	小学校で3回(13/24)理科実験を行う
21年12月	実験	小学校で3回(16/24)理科実験を行う
22年1月	実験	小学校で3回(19/24)理科実験を行う
22年2月	実験	小学校で3回(21/24)理科実験を行う
22年3月	実験	小学校で3回(24/24)理科実験を行う
22年3月末	実験	終了(修了証書を授与)

## ② 高木第二小理科教室（場所：高木第二小学校 実験日時：金曜日 15:00-17:00）

21年4月	準備	学校長あてに提案書を発送
21年5月	調整	参加希望の小学校と詳細な打ち合わせ。
		体験実験を行う
21年6月	実験	小学校で3回(3/24)理科実験を行う
21年7月	実験	小学校で2回(5/24)理科実験を行う
21年8月	見学会	候補予定(独立行政法人海洋研究開発機構)横須賀
21年9月	実験	小学校で2回(7/24)理科実験を行う
21年10月	実験	小学校で3回(10/24)理科実験を行う
	セミナー	子どものためのセミナー
21年11月	実験	小学校で3回(13/24)理科実験を行う
21年12月	実験	小学校で3回(16/24)理科実験を行う
22年1月	実験	小学校で3回(19/24)理科実験を行う
22年2月	実験	小学校で3回(21/24)理科実験を行う

22年3月	実験	小学校で3回(24/24)理科実験を行う
22年3月末	実験	終了(修了証書を授与)

### ③ 出張理科実験・理科工作

小学校からの要請に応じ、体育館等で全員参画する「理科実験屋台村」を開催します。

## 8. 将来の展望

- ① これらの事業を広く深く発展させ、1校/年の割合で増やし、サイエンスプロデューサーの人材を強化します。そして多くの子どもに楽しい理科実験を体験する機会を作ります。
- ② 子どもたちの無限な可能性を伸ばすために、社会貢献を進めている企業・業界団体の協力で、研究所や企業の研究者や技術者による「科学実験・理科工作」を開催します。
- ③ 多くの施設機関団体等の協力で自然観察やキャンプなど自然に親しむ機会をつくります。
- ④ 豊かな科学的素養を育成する体制のより一層の充実のために、活動の拠点となる「キッズイノベーションセンター」を設立します。センターでは、ソフト、ハードからロボット制御の開発や子どもによるFMラジオ局の開局を行う予定です。

## 事業の予算概要

## 【社会資源持ち寄り（収入）】

(単位：円)

	(自己資金)	金額	積算内訳
提案者	参加費	720,000円	参加費 500円×24回×60人
	見学会	100,000円	バス代・保険
	自己資金合計 (a)	820,000円	
	労力換算額計 (b)	360,000円	労力換算計算書のとおり
	市	負担金申請額 (c)	376,800円
資金合計額 (d) (a+c)		1,196,800円	事業費 (g) と同額

## 【負担金申請額 (c) チェック項目】

1. 対象となる経費 (e) 欄の 90%以内
2. 1事業あたり 50万円以内
3. 自己資金 (a) 欄に労力換算額 (b) 欄を加えた額以下であること。

## 【事業費の積算 (支出)】

	項目	金額	積算内訳
負担金の交付対象経費	講師謝金	576,000円	講師1名/アシスタント3名
	広報チラシの印刷	72,000円	6000部×12円
	ポスターの印刷	60,000円	100部×600円
	消耗費	230,400円	
	通信費	28,800円	80円×60人×4回
	保険	60,000円	1000円×60人
	見学会 (バス代)	90,000円	90,000円×1台
	イベント保険	10,000円	
対象となる経費合計額 (e)		1,127,200円	
その他経費	交通費	57,600円	48回×300円×4人
	会議費	12,000円	2000円×6回
	その他経費合計額 (f)	69,600円	
事業費 (g) (e+f)		1,196,800円	収入合計額 (d) と同額

# 労力換算計算書

(単位：円)

	項 目	換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間×回数×500円
	理科実験内容打ち合わせ 24回	72,000円	4人×1.5h×24回×500円
	実験準備 24回×2	216,000円	3人×3h×24回×500円×2回
	企画打合せ	72,000円	6人×6h×4回×500円
	合計 (b)	360,000円	



## 事業計画書

1. 事業名称 外国人の子ども支援事業
2. 実施主体
  - 団体名: NPO法人 外国人の子どものための勉強会
  - 事業担当課: 市民環境本部 企画管理室

### 3. 事業目的及び社会的効果（アウトカム）

松戸市における外国人登録者数は1万人を超え、小・中学校の外国人児童生徒登録者数は219名（06年）と増えている。多くの外国人が日本語を習いたい。早く日本語が上手になって日本での生活を安定させたいと希望している。成人に対する日本語教室は民間日本語学校、ボランティアによる日本語教室などが多い。

他方、外国人の子どもに対する日本語・学習支援は学校中心に行われてきた。外国人が集住していない松戸市等においては外国人の子どもは少数派であり「日本語がペラペラ話せても教科学習にはなかなかついていられない」と言った課題が顕在化しにくい。そこで地域において外国人の子ども支援を行い、子どもたちの日本語能力の向上及び教科サポートを行う。それは国際交流活動を進展させることにつながり、更にサポーターのために場・機会を提供することにより地域における理解者、支援体制の定着化をはかることになる。

### 4. 事業の課題及び事業成果（アウトプット）

昨年度の協働事業「外国人の子ども支援事業」では日本語スタッフ養成講座、夏休み日本語教室を実施した。養成講座への申込は64名あり、外国人の子どもへの関心の高さが伺えた。しかし、関心をもって日本語教室に参加した講座受講生（理解者）に達成感のある支援の場の用意が出来なかった。それは5日間と言う日数、定員25名の子どもという人数枠の制約などによると考えられる。この反省から本年度、再度「外国人の子ども支援事業」を提案した。

本年度は理解者を増やし、また外国人の子どもの課題を共有するために「地域で支える外国人の子ども」をテーマに講演会を開催する。日本語教室前「スタッフ養成講座」をひらき講座受講生（理解者）に支援の準備をしっかりとさせる。子どもの募集を早く丁寧に行い子ども数を把握する。ニーズを確かめカリキュラムを作る。また日本語教室にボランティア体験で参加した日本人中・高・大学生も多かった。それらの人に「講座」への出席を義務付け役割を担って日本語教室に参加させるとする。

### 5. 協働の意義

千葉県教育委員会では文部科学省の委嘱をうけ「千葉県における帰国・外国人児童生徒受入促進事業」を行っている。その中で「外国人児童生徒受入体制整備研究会」を設置し県教育庁、知事部局、関係各市代表者、NPO等民間推進団体との連携、ネットワークの構築を目指している。

松戸市の外国人の子ども受入に関しても、行政とNPOとの連携・協働の時期であると考え。この協働事業を一過性のものとしないうちに、昨年度に引き続き提案させていただく次第です。

## 6. 事業実施の役割分担

### ■ 提案者の役割

講演会の企画、実施。 講座の企画、実施。 夏休み日本語教室の企画、実施。

### ■ 市の役割

講演会、講座、夏休み日本語教室の広報。場の確保。負担金。

## 7. 事業スケジュール

### (1) 講演会「地域で支える外国人の子ども」

日時：5月〇日(日) 14:00~16:00 予定

会場：市民会館301

定員：50名

対象：学校、担任、学校派遣日本語ボランティア、国際ボランティア、一般、学生

講師：佐藤郡衛教授(東京学芸大学国際教育センター教授) 予定

### (2) スタッフ養成講座「さあ夏休み、外国人の子どもに日本語を教えよう」

日時：7月19日(日) 14:00~16:00

会場：市民会館301

定員：20名

対象：国際ボランティア、一般、学生

内容：基調講演 テーマ「日本語と国語の違い」講師：未定

夏休み日本語教室のカリキュラム・担当を決める。

### (3) 夏休み日本語教室(8日間)

日時：7月24日(金) 25日(土) 28日(火) 29日(水) 31日(金)

8月1日(土) 4日(火) 5日(水) 14:00~16:00

会場：市民会館301

対象：外国人の子ども30名

## 8. 将来の展望

課題を共有するための講演会は、外国人の子どもに関わる学校、地域が通年連携をとり役割分担して進める体制整備の一步になり、本事業は地域における外国人の子どもサポート体制の強化・定着化を促す。

将来は日本語教室に参加の外国人の児童・生徒とボランティア体験の日本人生徒・学生レベルの国際交流活動につなげていきたいと考えている。

本事業は、外国人の子ども支援を軸に地域連携、ボランティア養成、国際交流の推進を目指す3ヶ年(平成20年度・21年度・22年度)計画として進める。(「外国人の子ども支援事業3ヶ年企画書」を添付)



(第6条関係)

### 事業の予算計画

【社会資源持ち寄り (収入)】

(単位:円)

提案者	(自己資金)	金額	積算内訳
	NPO会費 寄付	30,000円 10,000円	@1,000円×30名
	自己資金合計 (a)	40,000円	
	労力換算額計 (b)	250,000円	労力換算計算書のとおり
市	負担金申請額 (c)	283,840円	
資金合計額 (d) (a + c)		323,840円	事業費 (g) と同額

【負担金申請額 (c) チェック項目】

1. 対象となる経費 (e) 欄の90%以内
2. 1事業あたり50万円以内
3. 自己資金 (a) 欄に労力換算額 (b) 欄を加えた額以下であること。

【事業費の積算 (支出)】

項目		金額	積算内訳
負担金の交付対象経費	講演会講師料	30,000円	1人×30,000円
	養成講座講師料	30,000円	1人×30,000円
	日本語教室謝金	240,000円	15人×8日×2,000円
	ボランティア保険	7,840円	35人×8日×28円
	広報ちらし	9,000円	用紙3,000円×3種類
	日本語教室用文具コピー代	7,000円	
対象となる経費合計額 (e)		323,840円	
その他経費		円	
		円	
その他経費合計額 (f)		円	
事業費 (g) (e + f)		323,840円	収入合計額 (d) と同額

労力換算計算書

(単位：円)

	項 目	換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間×回数×500円
	講演会打ち合わせ	10,000円	20名×1h×1回×500円
	講演会準備・片付け(当日)	20,000円	20名×2h×1回×500円
	講演会振り返り	10,000円	20名×1h×1回×500円
	講座(夏休み)打ち合わせ	20,000円	20名×2h×1回×500円
	講座準備・活動・片付け(当日)	30,000円	20名×3h×1回×500円
	講座振り返り	10,000円	20名×1h×1回×500円
	夏休み教室打ち合わせ	20,000円	20名×2h×1回×500円
	夏休み教室準備・片付け(当日)	120,000円	15名×2h×8回×500円
	夏休み教室振り返り	10,000円	20名×1h×1回×500円
	合計 (b)	250,000円	

## 松戸市協働事業「外国人の子ども支援事業」3ヶ年企画書

### H20年度 「外国人の子ども支援事業」：～地域で支える外国人の子どもたち～

●スタッフ養成講座 ～外国人の子どもに日本語を教えよう～

「あなたの経験知を外国人の子ども支援に生かしませんか！」と広く一般に呼びかけ日本語支援者を養成。

期間：2日間 募集人員：50名

●夏休み日本語教室 ～みんないっしょに勉強しよう～

グループに分かれ、苦手な日本語に集中チャレンジする事で達成感をもたせる。

期間：5日間 募集人員：25名

\*地域での支援として、夏休み日本語教室を充実したものにすることが第1の目標。そのために広く一般に呼びかけ、サブスタッフ募集の養成講座を開催。外国人の子どもを支援したいと言う熱い思いの方が多く集まり、日本語教室も成功裡に終わった。

### H21年度 「外国人の子ども支援事業」：～外国人の子どもに必要なのは日本語支援だけ？～

●基調講演 テーマ『地域で育てる外国人の子ども』 講師：佐藤郡衛氏

外国人の子どもの教育は今、何が課題なのか。地域がこれに関わるとはどういうことか。地域が出来る事は何か。対象は現在、外国人の子どもを担当している学校、担任、日本語ボランティア、一般、学生とする。

期間：1日間 募集人員：50名

●スタッフ養成講座 ～さあ、夏休み、外国人の子どもに日本語を教えよう～

・基調講演 テーマ『日本語と国語の違い』 講師：未定

・夏休み日本語教室の内容と担当スタッフグループの決定など

期間：1日間 募集人員：20名(学生を含む)

●夏休み日本語教室 ～さあ、いっぱい勉強するぞ！～

日本語、夏休みの宿題、作文など夏休みだからできることをグループで行う。子どもへの呼びかけを丁寧に行い人数を確保する。小学生は5日間、中学生は8日間とする。

期間：8日間 募集人員：30名

\*まず基調講演によって、地域の学校に入った外国人の子どもを地域で支援するとはどういうことか、何が出来て、何が出来ないのかなどをみんなで考える。養成講座は、夏休み日本語教室にサブスタッフで参加してもらう人にしぼって行う。“レッツ体験”の中学生、高校生の参加増をねらう。夏休み日本語教室を充実したものにするため、今回は、募集人員を30名に増員、教室を8日間に延長して子どもたち、特に中学生の要望に応えたい。また教室終了時に打ち合わせを行いスタッフ、サブスタッフの役割を再確認する。この結果、全体の実施期間を10日間に延長する。

H22年度 「外国人の子ども支援事業」：～夏休み・冬休みの地域での支援～

\*夏休み日本語教室の期間は8日間とするが、冬休み日本語教室を新たに5日間追加する。

この結果、夏冬を通じた全体の実施期間を15日間に延長し、子どもたちの要望に応えると同時に、サブスタッフの皆さんに少しでも多くの実習の機会を提供する。スタッフの養成は現場で実体験を重ねることがベストと考えている。

以上

1. 事業名称 子育て支援ネットワークづくり事業

2. 実施主体

■ 団体名： 松戸子育てフェスティバル実行委員会

■ 事業担当課： 児童福祉課

3. 事業目的及び社会的効果（アウトカム）

「地域の子どもは地域で育てる」という考えのもと、「公」と「民」、「保育園」と「幼稚園」をはじめ様々な民間団体が協働して、子育て中の市民を支援することを目的としています。

事業を通じ、まず私たち支援団体同士が現状のサービス内容や課題を共有することができます。さらに、事業を継続的に実施することで、行政と市民が諸課題に協働して対処できる「子育て支援ネットワークづくり」につなげたいと考えています。

私たちの活動も4年目を迎え、構成員同士、顔の見える関係になってきました。そこで次は、子育てをしている保護者自身にも私たちのネットワークに参画してもらうことを、目的のひとつに掲げていきます。それによって、市民同士互いに支え合える「ゆるやかなつながり」が紡がれることを期待しています。

4. 事業の課題及び事業成果（アウトプット）

◆下記3つの事業を実施します。

①子育てフェスティバルの継続実施。

②子育て支援ボランティア養成講座の実施。

③松戸子育て情報パンフレット作成・頒布。

フェスティバル用のパンフレットを活用し、市内の子育て情報誌として一般配布します。

◆上記事業で解決したい課題と成果は、

①子育て支援団体の連携強化

フェスティバルや養成講座といった具体的活動の準備を通じ、各団体がお互いの活動に対する理解と信頼関係を深めることができます。信頼関係は、一朝一夕に築けるものではありません。

ん。維持するための工夫や努力もたゆまず続けていく必要があります。

## ②子育て支援サービスを、必要とする人に広く細やかに届ける

松戸市内では、さまざまな子育て支援サービスが提供されています。しかしながら、せっかくの多様な活動も、必要とする人が必要とする時になかなか届けられません。フェスティバル用のパンフレットを増刷し市民に配布することで、「窓口」を広くできます。

## 5. 協働の意義

子育て支援の担い手は、実績のある保育園や幼稚園を核としながら、徐々にNPOやボランティアなどへ広がりつつあります。また社会福祉協議会も、街づくりや地域福祉の観点から子育て支援活動に力を入れ始めました。しかしながら全体的には、まだまだ行政主導でその力に頼らざるを得ないという課題もあります。

これらの歴史や背景、組織体力もさまざまな団体がその違いを認め合い、共に活動を続けることに、大きな意義があると思っています。活動を重ねるうちに、互いの活動への信頼が高まり、さらに行政と民間の役割分担が進んでいくことでしょう。

## 6. 事業実施の役割分担

### ■ 提案者の役割

- ◆事業の企画・運営
- ◆子育て支援団体のネットワーク組織運営

### ■ 市の役割

- ◆子育て関連部署が実行委員会に参画
- ◆会場の確保、広報

## 7. 事業スケジュール

- |             |  |
|-------------|--|
| 平成 21 年 4 月 | 運営委員会開催、イベント趣旨確認、年間スケジュール・予算案作成<br>以後毎月 1-2 回開催  |
| 5 月         | 実行委員会開催、上記協議、ボランティア養成講座企画<br>以後隔月 1 回程度開催  |
| 7 月～        | ボランティア養成講座実施（計 3 回程度）。市役所または女性センター<br>受講生は、講座の受講、ボランティア体験等を経て、9 月以降は運営委員<br>会および実行委員会に参加 |
| 9 月         | フェスティバルについて運営委員会、実行委員会を開催  |

平成 22 年 2 月 子育てフェスティバル実施（ふれあい 22）、ボランティアの参画。  
3 月 報告書作成

## 8. 将来の展望

私たちの活動が、将来、子どもの成長を保護者とともに社会全体で支えていくための仕組みに発展したら素晴らしいことです。その可能性は決して低くはありません。共に活動するなかで、「自助・共助・公助」の意識を持ち、そのあり方を検討できる会員で構成されていると実感しているからです。

具体的には、

1. 養成講座やフェスティバルなど、子育て支援団体のネットワーク活動を模索していきたいです。
2. 子育てボランティア養成講座受講生が、それぞれの地域で子育てサポーターとして活躍できるようになることが、「地域で子育て」への大きな前進ではないでしょうか。私たちは、人材の発掘や育成はもちろん、それぞれの地域で受講生の活動を支えていきます。
3. 活動資金は、企業に協賛金を募っていきます。

(第6条関係)

事業の予算計画

【社会資源持ち寄り (収入)】

(単位: 円)

提案者	(自己資金)	金額	積算内訳
	繰越金・参加費	230,000 円	
	協賛金	150,000 円	
	県社協補助金	100,000 円	
	自己資金合計 (a)	480,000 円	
	労力換算額計 (b)	255,000 円	労力換算計算書のとおり
市	負担金申請額 (c)	500,000 円	
	資金合計額 (d) (a + c)	980,000 円	事業費 (g) と同額

【負担金申請額 (c) チェック項目】

1. 対象となる経費 (e) 欄の 90%以内
2. 1 事業あたり 50 万円以内
3. 自己資金 (a) 欄に労力換算額 (b) 欄を加えた額以下であること。

【事業費の積算 (支出)】

項 目		金額	積算内訳
負担金の交付対象経費	外注印刷物	500,000 円	チラシ 8000 部、ポスター 300 部 パンフ 3000 部、報告書 1000 部
	講師謝金	180,000 円	@30,000 × 6 人 (講座、フェス)
	消耗品	100,000 円	講座テキスト、フェスプログラム
	通信費	50,000 円	切手代その他
	保険料	30,000 円	
	委託料	60,000 円	パンフレット他企画
	対象となる経費合計額 (e)		920,000 円
その他経費	交通費	20,000 円	学生ボランティア
	お弁当代	20,000 円	学生ボランティア
	予備費	20,000 円	
	その他経費合計額 (f)		60,000 円
事業費 (g) (e + f)		980,000 円	収入合計額 (d) と同額

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。



# 労力換算計算書

(単位：円)

	項 目	換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間×回数×500円
	フェス事務局会議 (10回)	50,000円	5人×2h×10回×500円
	フェス運営委員会 (6回)	60,000円	10人×2h×6回×500円
	フェス実行委員会 (5回)	100,000円	20人×2h×5回×500円
	講座運営 (3回)	45,000円	10人×3h×3回×500円
	合計 (b)	255,000円	





# 事業計画書

1. 事業名称 小・中学生向け金銭教育 事業

2. 実施主体

■ 団体名： NPO法人 おかねの楽校  
(URL：<http://www.okanenogakkou.com>)

■ 事業担当課： 生涯学習本部 企画管理室

3. 事業目的及び社会的効果（アウトカム）

子どもたちが“夢の実現”や“豊かで幸せな人生を歩む”ことができるようになるために必要な「金銭教育」を行います。「金銭教育」はお金の価値を理解し、健全な使い方ができる、「生きる力」を培う教育です。お金は、“最高の召使いであり、最悪の主人である”といわれます。生活をするためや、自分の夢を叶えるためには、とても価値を持つ物ですが、使い方を誤ると人生を狂わす凶器にもなります。子供達に健全な金銭感覚と正しい知識を持ってもらいたい所以です。

◎この事業の目的

この事業では、松戸の未来を担う子どもたちに、お金やお金にまつわる世界についての正しい知識を段階的に学ぶ機会を私たちや保護者が提供することにより、

- ①お金の価値や機能、経済・金融について理解する
- ②お金を健全に使うための価値判断力を身につける
- ③子どもたちが自分の将来の夢を考え明確化する
- ④保護者が家庭において金銭教育を実施することができるようになることを目的とします。

◎この事業の社会的成果

この事業の目的を達成することによって、子どもたちは“健全な生きる力”や“金銭に対する道徳観”を持つようになります。また、自分たちの夢を明確化することによって、就業意欲を持ち、将来豊かで幸せな人生を歩むことができるようになります。

4. 事業の課題及び事業成果（アウトプット）

◎おかねの楽校が実施する『おかねの楽校』、小・中学校向け出張授業では、今まで子どもたちがきちんと学ぶ機会が少なかったお金やお金にまつわる世界についての正しい知識を学びます。

具体的には、

- “必要なもの”と“欲しいもの”があることを理解する
- お金を管理することうを身につける
- 経済や金融について知る
- 自分の夢（本当にやりたいこと、本当にほしいもの）を明確にし、その実現の為の手段を

考える（必ず金銭が絡むはず）

○働くことの“大変さ”と“喜び”を知る  
ことです。

◎より多くの子どもたちを対象に実施するオリジナルの“おこづかいゲーム”では、

- お金のやりくり
- 物を大切に作る心を持つ
- 目標を持ってお金を貯める
- おこづかい帳のつけ方

を学ぶことができます。保護者も一緒に参加してもらうことによって、家庭での実践ができるようになります。

◎保護者向けセミナーでは、おこづかいの意義やあげ方の工夫等を知ってもらうことによって、家庭でのより良い金銭教育の実践を行なってもらうようにします。

◎スタッフ・アシスタントの増員およびレベルアップを行うことにより、より広い範囲でより充実した金銭教育が行えるようにします。

## 5. 協働の意義

平成20年度松戸市協働事業に採択され、『おかねの楽校』事業や“おこづかいゲーム”などの事業実施に際し、教育委員会のご協力をいただき、募集チラシを市内小学校全校に配布していただいた事により、知名度は上がり、多くの保護者の方に金銭教育について関心を持っていただいたようです。この状況をさらに良いものにし、松戸市の未来を担う子どもたちのために、松戸市に金銭教育を根付かせるには松戸市との協働事業であることによる、信用力、広報力が必要になります。

## 6. 事業実施の役割分担

### ■ 提案者の役割

- －1 小学生向け金銭教育講座『おかねの楽校』プログラムの実施  
（年間16回を予定、第1回はおこづかいゲームで）
- －2 小・中学校向け出張授業PRのためのプレゼン資料の作成  
出張授業実施に向けて、カリキュラム作成  
出張授業の実施
- －3 “おこづかいゲーム”の実施
- －4 保護者向けセミナー「おこづかいのあげ方」の実施
- －5 アシスタントの募集  
スタッフ（NPOの会員）の募集  
制度の整備  
レベルアップ研修の実施
- －6 『おかねの楽校』・おこづかいゲーム・保護者向けセミナーの参加者募集ちらしの作成・印刷

## ■ 市の役割

- 1 金銭教育出張授業PRのために、各機関（小・中学校、校長会、千教研、PTA連合会など）との調整および実施援助
- 2 “おこづかいゲーム”、“保護者向けセミナー”など、活動のための場所の確保
- 3 広報支援（チラシの学校への配布・市広報紙への掲載など）
- 4 活動費の支援

## 7. 事業スケジュール

### ①『おかねの楽校』

小学生高学年向けに1年間16回のカリキュラムを実施します。

（カリキュラムの回数は今後検討します。）

穂台を会場に定員30名

平成21年4月下旬から平成22年1月上旬まで、月1～2回で実施

### ②小・中学校向け出張授業

学校での授業やPTA研修会等の場に出張し、授業を行うことを目指します。また、その機会を得るために、校長会、千葉県教員研究会（千教研）、PTA及び各種教育関係団体に対するプレゼンテーションを実施し、児童・生徒への金銭教育の必要性や将来に向けた当団体と学校の連携による有効性を提案します。

平成21年4月から平成22年2月の間で実施

### ③“おこづかいゲーム”

市民会館等を会場に1回40人位で実施します。

平成21年7月上旬、11月中旬、平成22年3月上旬に実施

（4月に『おかねの楽校』の第1回として行う）

### ④保護者向けセミナー

保護者向けに“おこづかいのあげ方”をテーマにセミナーを実施します。

平成21年4月上旬、8月下旬、平成22年3月上旬に実施

### ⑤スタッフ・アシスタントの増員およびレベルアップ

広範囲に金銭教育を実施するために、スタッフやアシスタントの増員を目指します。

本年度は、インストラクターを募集し、人員の拡充を図りました。インストラクター制度を発展的に改組し、アシスタント制度として人員の増強とレベルアップを図ります。

アシスタントには、大学生の活用も考慮します。

また、スタッフ（NPOの会員）も拡充します。

平成21年4月に募集及び研修を行います。また、OJTを実施します。

8. 将来の展望

- ①松戸市内の小・中学校への金銭教育プログラムの普及  
(総合的学習の時間などの利用、学校支援協力者となる)
- ②金銭教育プログラム普及(①)のため、教師用テキスト、児童用テキストの作成
- ③金銭教育普及のため、保護者向け書籍の作成

## 事業の予算計画

【社会資源持ち寄り (収入)】

(単位:円)

	(自己資金)	金額	積算内訳
提案者	『おかねの楽校』参加費	480,000円	16,000円×30人
	ゲーム・セミナー参加費	90,000円	1,000×(90+30)人
	事業者拠出金	346,000円	
	自己資金合計 (a)	916,000円	
	労力換算額計 (b)	258,000円	労力換算計算書のとおり
市	負担金申請額 (c)	500,000円	
	資金合計額 (d) (a + c)	1,416,000円	事業費 (g) と同額

【負担金申請額 (c) チェック項目】

1. 対象となる経費 (e) 欄の90%以内
2. 1事業あたり50万円以内
3. 自己資金 (a) 欄に労力換算額 (b) 欄を加えた額以下であること。

【事業費の積算 (支出)】

	目	金額	積算内訳
負担金の 交付対象 経費	『おかねの楽校』	(698,200円)	
	講師代	315,000円	15回×21,000円
	アシスタント謝礼金	127,600円	3人×13回×2,400円+5人×2回×3,400円
	消耗品	25,000円	講座での資料・消耗品
	会議資料	6,600円	22回×300円
	賃借料	50,000円	屋台出店時の機材レンタル料
	通信費	24,000円	10回×80円×30人
	チラシ印刷費	150,000円	30,000枚×5円
	出張授業	(251,000円)	
	プレゼンテーション用資料印刷	200,000円	10枚×200部×100円 (フルカラー)
	出張授業資料作成・印刷	30,000円	
	出張授業講師料	21,000円	1回×21,000円
	おこづかいゲーム	(140,000円)	
講師・アシスタント費	132,000円	(1人×21,000円+2,400円×5人)×4回	
消耗品費	8,000円	2,000×4回	
保護者向けセミナー	(272,400円)		
講師・アシスタント費	266,400円	(21,000円×4人+2,400円×2人)×3回	
消耗品費	6,000円	2,000×3回	
スタッフ・アシスタント増員 レベルアップ	(5,000円)		
スタッフ・アシスタント募集費用	2,000円	募集用チラシ等作成	
スタッフ・アシスタント教育費	3,000円	資料作成費	
行事保険料	50,000円	レクリエーション保険・賠償責任保険	
	対象となる経費合計額 (e)	1,416,600円	
経費 その他		0円	
	その他経費合計額 (f)	0円	
	事業費 (g) (e + f)	1,416,600円	収入合計額 (d) と同額

# 労力換算計算書

(単位：円)

	項 目	換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間×回数×500円
	『おかねの楽校』企画打合せ	128,000円	8人×2h×16回×500円
	『おかねの楽校』資料作成	24,000円	1人×3h×16回×500円
	『おかねの楽校』運営打合せ	48,000円	8人×1h×12回×500円
	“出張授業”企画打合せ	36,000円	6人×2h×6回×500円
	“出張授業”プレゼン資料作成	6,000円	2人×3h×2回×500円
	アシスタント教育	16,000円	4人×2h×4回×500円
	合計 (b)	258,000円	



1 事業名 ホット子育て事業

2 実施主体 松戸南豊裕会

3, 作成経過 8月29 「ホット子育て事業」書類提出。  
9月17日付け 9月29日認定決定書受け取る。  
9月29日 第1回3者協議開催。  
10月15日 第2回3者協議開催。  
10月15日 下記の理由にて認定書取り下げを申し出た。

4, 不成立理由

- (1) 平成20年9月17日、8月29日付けの、「ホット子育て事業」の認定書類を戴きました。しかしこの事業を行うことは、協働担当課が高齢者・児童課・保育課と3課にかかわる事となり、何処に絞って良いのやらと、市も大変お困りのご様子でした。
- (2) 保育園の場所を使用しての事業となると、県の方にお伺いを願うことにも成り、いろいろ問題も有るようでした。
- (3) この事業は地域の育児に悩む人や高齢者の為にぜひ成功させたい事業と皆で考えて20年度何回か行って来た保育園での広場を、本格的に別事業として立ち上げた。役員たちで話し合っ計画を立て、認定の書類を戴きました時は皆で、地域に広く役立つと大変喜びました。しかしこの事業を立ち上げる事について、関係各課を何処に絞るか、ご迷惑をお掛けする事となりました。そのために役員で相談した結果、せっかく認定して戴きながら、市に申し訳なく思いますが、本年度は認定を取り下げさせて戴きます。我々提案者だけで、一年間市の補助金を頼らず何処まで実施出来るか行動して見てまた、その結果、21年度に改めて協働事業として提出出来たらと考えております。  
良い勉強をさせて戴き感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 協議経過書（保育課）

### 1. 不成立理由

まず始めに、今回の提案内容に類似した事業として平成18年度まで保育園を利用している児童と地域の高齢者の交流に係る事業を対象としての補助対象事業（世代間交流事業）があったが、国の制度改正に伴い補助対象事業から除外された経緯がある。また、保育園に入園していない児童をもつ保護者を対象に育児相談を行う補助事業（育児相談事業）は現在も補助対象事業となっている。

そのうえで保育課入所担当室としては、今回の提案に対して参画した点は、児童福祉施設である保育所を異なる団体に使用させることは可能か、また、使用させる場合に使用料徴収は可能かという2点である。

1点目の保育所を異なる団体に使用させることについて、保育所開所日は運営費で支払いをしているので他団体の使用は不可となる（県に改めて確認したところ不可との回答）。その他の日は可能。2点目の使用させる場合に使用料徴収は可能かということについて、光熱費等を含む実費相当分の支払いであれば可能である。

以上2点を回答とさせていただきます。

## 協議経過書（高齢者福祉課）

## 1. 不成立理由

高齢者と乳幼児・保護者との交流を持たせることにより、高齢者の知識を伝えることによる生きがいづくりと保護者の育児不安を解消させようということであるが、本事業を実施するうえで、保育園を使うことについて解決しなければならない問題が多々あるようである。

また、本事業の主目的が、乳幼児の保護者に対する育児相談なのか、高齢者の生きがい対策事業なのかの区分けが明確になっていないようでありその整理も必要と思われる。

## 協議経過書（児童福祉課）

### 1. 不成立理由

- ・高齢者のための事業なのか、児童のための事業なのかの目的が不明確であり、提案者と事業担当課の両者間で目的の共有がなされなかったため。

- ・児童福祉課の既存事業（地域子育て支援事業）と事業内容が類似している部分があり、協働事業として実施する必要性に疑問があるため。

## 協議経過書（協働推進課）

### 1. 3者協議の経過及び不成立理由

#### 第1回3者協議内容

平成20年9月29日（月）10:00～12:00

提案者から説明があり事業担当課から事業内容について質疑があった。

#### 事業内容

保育園又は、小山集会所に高齢者、乳幼児及び母親を呼んで、「ふれあい広場」を行う。ふれあい広場は月2回・講演会は月1回を予定、参加予定は1回15人程度、参加費1回200円、スタッフは保育園の職員（有給休暇を出し、ボランティアで実施）講演会は大学の先生を予定。将来的には松戸全域で実施し会費で運営できるようにしたい。

他の保育園で実施している、高齢者のボランティア参加と違う、高齢者の自主的な主導権を持った形でやりたい。

#### 第2回3者協議内容

平成20年10月15日（水）10:00～11:30

提案者から提案事業取り下げの申し出があった。

#### 理由

ホット子育て事業を取り下げて、太鼓を中心にした高齢者のふれあい事業に変えていきたいと考えている、今年度は独自に実施してみて次年度に再度提案したいとの理由でした。

### 2. 協働推進課の見解

本提案は、子育て・高齢者支援の団体（松戸南豊裕会）を作って保育園で高齢者と乳幼児の保護者を招き、触れ合いをもつ交流事業を行うものであったが、児童福祉施設である保育園を異なる団体に有償で使用させることの可否など、ハード的解決点や、実施しようとしている事業の具体的内容について3者協議をしている中で、当初の提案者の考えを再検討するに至ったものです。

本提案は、保育、福祉、高齢者支援の分野にまたがる、市民活動ならではの発想と評価できものであり、制約条件の問題はあるものの、今後の展開に期待したい。

